

(4) ①様式第4号-2 (報告書)

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関：鹿児島大学大学院教育学研究科（教職大学院） 連携機関：鹿児島県教育委員会、鹿児島大学教育学部代用附属鹿児島市立伊敷中学校
※機構記入欄No.： -	セミナー名：【NITS カフェ in KAGOSHIMA】 主タイトル：ついに開催！「深い学び」懇談会 副タイトル：実践から学ぶ、「深い学び」を実現する授業改善
テーマ： 今回の学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善が求められている。しかし、「深い学び」に関しては、どのような学びを意味するのか理解できないという声が多く寄せられている。 そこで、本 NITS カフェにおいては、様々なキャリアステージにある教員と指導主事・学生が少人数グループを編成し、実践事例を基に「深い学び」に関して懇談したり、参加者が「深い学び」を実現している子供の姿を具体的にイメージしたりすることを通して、「深い学び」について考えることをテーマとした。	
内容 第1部は京都市立下京中学校、福井市明倫中学校、鹿児島市立伊敷中学校の実践発表、第2部は事例をもとに子供の学びを見取る演習の2部で構成した。 【第1部】 <ul style="list-style-type: none">○ 京都市立下京中学校 「深い学び」の実現を目指し「①授業の担当学級割り当て」「②授業の構想」「③カリキュラム・マネジメント」の三つの視点から工夫を行った。<ul style="list-style-type: none">① 授業の担当学級割り当て 一人の教師が複数の学年にまたがって授業を担当する「クロス持ち」を行い、同一学年の教科指導に複数の教員が関わることで、教師が指導の在り方について互いに学んだり、三年間の系統性を考えたりしながら授業が改善されることを期待した。② 授業の構想 独立行政法人教職員支援機構次世代教育推進センターが作成した資料を基に、「深い学び」を実現する子供の姿をイメージしながら、「本質的な問い」→「対話的な学び」→「振り返り」で展開する授業を構成した。③ カリキュラム・マネジメント 教科間のつながりを視覚化した単元配列表を今後本格的に活用していきたい。○ 福井市明倫中学校 「深い学び」の実現を目指し「①学びの姿の具体化」「②丁寧な振り返り」「③カリキュラム・マネジメント」の三つの視点から工夫を行った。<ul style="list-style-type: none">① 学びの姿を具体化 独立行政法人教職員支援機構次世代教育推進センターが作成した資料を基に、「深い学び」を実現する生徒の姿をイメージしながら、「課題発見や提示の工夫」→「協働的・対話的な問題解決の工夫」→「まとめや振り返りの工夫」で展開する授業を構成した。② 丁寧な振り返り 振り返りを「分かったこと・できるようになったこと」「これまでの学習のつながり」「これから調べてみたいこと・新たな疑問」の視点から行うようにした。③ カリキュラム・マネジメント 全国学力調査や学校評価等の結果と実際の授業に関連付けたPDCAサイクルを確立するように心がけた。○ 鹿児島市立伊敷中学校 「深い学び」の実現を目指して、①振り返りの充実、②対話環境の充実、③授業構想、④汎用的な資質・能力の育成の4点から工夫を行った。<ul style="list-style-type: none">① 振り返りの充実	

一定量以上の文字言語を用い、自己の変容を子供が自覚化できる振り返りを全教科で実施した。

- ② 対話環境の充実
思考ツールを積極的に活用し、思考の可視化、操作化を図ることで、思考の広がりや深まりがある対話が実現するようにした。
- ③ 授業構想
授業中の子供の思考をイメージし、授業を終末部分から逆向きに構想するようにした。
- ④ 汎用的な資質・能力の育成
5つの資質・能力の育成を目指し、それぞれの資質・能力のルーブリックを作成し、全教職員と生徒・保護者と共有した。

【第2部】

授業動画と学習指導案から、子供の学ぶ姿と教師の手立てを見取る授業分析会を行った。授業開始時と終了時の子供の姿を比較し、変容した様子を捉えるとともに、その要因となった教師の手立てを明らかにする演習を行った。

成果：本懇談会のアンケートより

【第1部】

- ・ 各校の取組はどれも参考になるものばかりであった。また、発表を受けて班内で意見交流する時間が充実していた。
- ・ 「問い」に関する各校の取組をもっと詳しく聞きたかった。
- ・ 三校の取組から、研修を焦点化する必要性を感じた。授業のイメージについては、今後参考にしたいと思った。リラックスした雰囲気の中で話げできたことで議論が深まった。

【第2部】

- ・ 日々の授業の中で、生徒の学びをここまで分析したことはなかった。とても大切なことであると感じた。このような場を定期的に設け、生徒の学びを見取る力を高めていきたい。
- ・ 生徒の発言・答えの背景から生徒の学びを見取る力の重要性を感じた。同時に、自分の見取る力の弱さも分かった。
- ・ 子供の発言の関連性から子供の変容の分析ができることを学んだ。
三校の取組や授業動画をもとにした意見交換・質疑応答から、深い学びを実現するための手立てや生徒の学びを見取る力の大切さを学んだり、「深い学び」のイメージをもつことにつながったりしたことがうかがえた。

アイデアや工夫したこと：

- ・ 三校の実践発表の後、その内容について班内で懇談する時間を設けた。発表者は各班をまわって、班内で出た質問に回答した。少人数で話しやすい雰囲気の中で、マトリックス表に意見をまとめながら、発表内容について、深く考える場となった。【成果物1参照】
- ・ 実際の授業動画を視聴した後、子供の学びについて懇談を行った。実際の授業場面を基に協議することで、具体的に話をする事ができた。また、付箋を用いて互いの考えを可視化することで、対話に深まりが生まれた。【成果物2参照】
- ・ 分析会の最後にワールド・カフェを行った。ワールド・カフェを行うことで、リラックスした雰囲気の中で班の意見を共有することができた。

<写真・図など>



【懇談風景】
教職大学院の学生、指導主事、現場で働く教員が共に学び合いました。



【成果物1】
三校の取組から深い学びを実現する具体を学びました。

【成果物2】
ネットワークのように広がる子供の学びを見取りました。

